

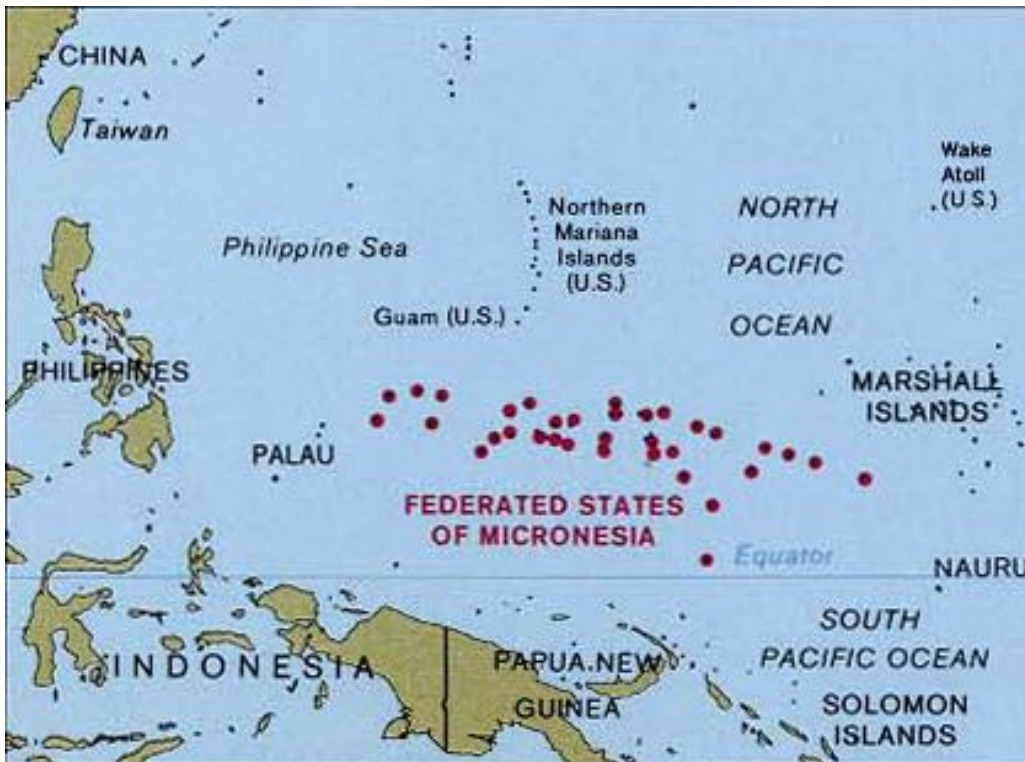
太平洋島嶼地域内における労働移動と社会経済変化

—フィリピン共和国とミクロネシア連邦 (FSM) の事例—

鹿児島大学法文学部 西村知

はじめに

商品、資本、人のグローバル化は、先進国と先進国、先進国間と発展途上国にとどまらず、発展途上国間でも進展している。本論文は、フィリピンとミクロネシア連邦における二つの発展途上国における労働移動、貿易の拡大を統計データによって明らかに、それがもたらす社会経済的な影響を、既存研究や筆者のフィールド調査の結果より明らかにする。特に従来 of 社会構造、グローバルな政治経済環境といった枠組みを持つ国で、他の発展途上国の社会経済的プレゼンスの高まる過程で、経済主体としての FSM の男性がいかなる影響をうけるかについて議論する。



SOURCE: FSM government

1. ミクロネシア連邦の経済におけるフィリピンのプレゼンスの拡大

1.1 フィリピン人の海外出稼ぎ

外務省によれば、2008年のフィリピンの海外労働者は、819万人である。人口が2010年の推計値では、9401万であるから、全人口の9%が海外労働者であることになる。言うまでもないが、就労可能人口のみを母数とすればこの割合はさらに高まる。POEA（フィリピン会が雇用庁）の統計で把握されているのは、2010年の場合、陸上の雇用は、120万人である。船員などの海上雇用の約44万人を加えると約144万人となる。海外労働の行き先は、多い順にサウジアラビア、UAE（アラブ首長国連邦）、香港、カタール、シンガポールである。職種としては、女性を中心としたハウスキーパーが圧倒的に多く（約28%）、次に、やはり女性の割合が高い雑役・掃除人、そしてケアテーカーや看護師などが続く（それぞれ全体の3-4%）。男性が中心の職種は、電気配線工、配管工（男女総計で5、6番目）である。中東へは、女性はメイド、男性は工事関係の労働者として、香港、シンガポールでは、女性がハウスキーパーとして労働するという形がもっとも多い。注目すべきことは、この基本的な構造はここ数年、大きくは変化せず、上位国における海外労働者数、合計数も、横ばいであるのに対し、が、行き先国、地域が多様化していることである。ここで注目すべきことは、オーストラリア、ニュージーランドなどの高所得オセアニア地域に加えてや南アフリカ、スーダンなどのアフリカ大陸やそれ以外のフィリピンと所得が同レベルあるいは低レベルの地域に世界規模で拡大していることである。これらの国々でのフィリピン人労働者の受け入れが定着するかどうかは不透明であるが、高所得国への出稼ぎとの質的違い、相手国の社会経済へ与える影響を考察することは重要である。

フィリピンから、より所得の高い国々への出稼ぎ国における実態調査とその社会経済学的な研究は多く行われている。本稿は、これまで研究の少なかったフィリピンよりも所得の低い国への出稼ぎの実態の実証研究の意義について考察し、現時点での暫定的な試論を展開する。特に、労働力受け入れによる経済的な影響が比較的大きいことが予想される小規模経済の国家について考察する。研究対象とする国は、太平洋の小島嶼国であるミクロネシア連邦（FSM）である。

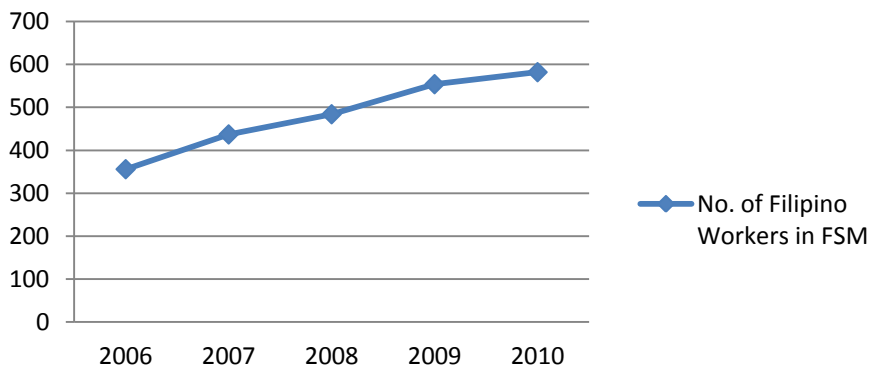
1.2 フィリピンからFSMへの出稼ぎ・輸出

POEAの統計によると、フィリピン人のFSMでの海外労働者は、2006年の356人から、2010年は、582人と右上がりに61.2%の伸びを示している。POEAの統計が実勢の1/6であると仮定(144万人/819万人)すると実際には、3千5千人程度が働いていることになる。FSMの人口が、11万人弱であることを考えると、この水準は決して低くない。

FSM政府の統計を用いて、FSMへの入国者の観光者とそれ以外の目的での入国に分けて後者から前者をさし引いた入国者数を示したのが図1である。これらの入国者は就労を目的としていると考えられる。この図によれば、フィリピン人はアメリカ人について多く、主要な外国人労働者であることがわかる。さらに、2000年以降、太平洋島嶼国、日本、オ

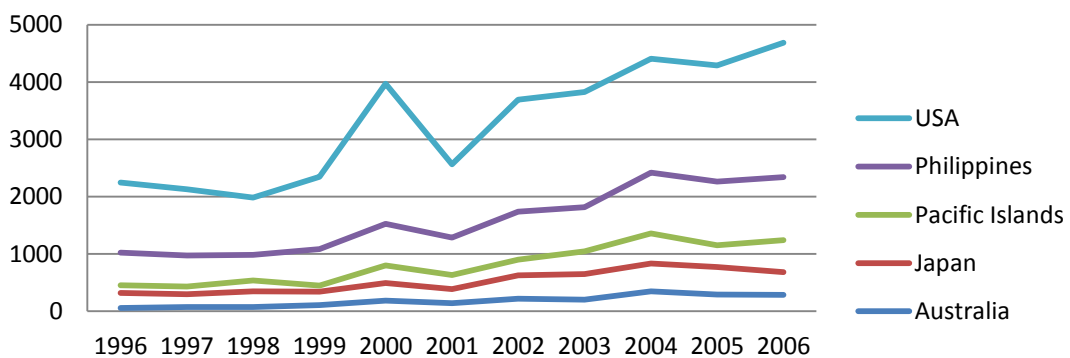
ーオトラリアなどの主要国よりも高い伸びを示していることも注目すべきである。職種に関しては、前述の POEA の統計 FSM のデータを分析することによって概観をつかむことができる。表 1 は、2010 年に新規で雇用された者の職種を表したものである。ここで注目すべきことは、フィリピン人労働者は、中東や香港、シンガポールなどのハウスキーピング、掃除人などの単純労働に就く者は皆無であり、生産の中心を担う技術者や専門家が中心であるということである。サービス産業に就く者もいるが彼らは、商店の監督者、アドバイザー、料理人とすべてが専門的な職種である。

図1 No. of Filipino Workers in FSM



Source: POEA

図2 Visitors to FSM (non tourists)



SOURCE: FSM Government

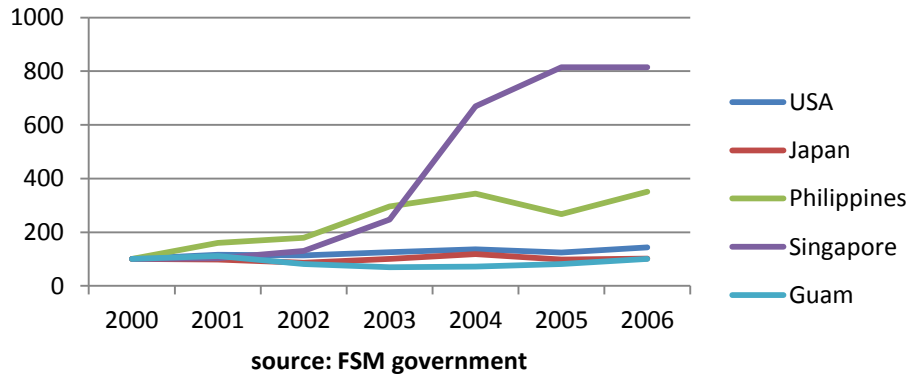
表1 FSMのフィリピン人新規雇用者の職種（2011年）	
職種	人数
生産および関連労働者、 輸送機器オペレーター・労働者	99
大工	20
レンガ・タイル工	14
溶接工	10
機械工	7
電線工	6
現場監督	5
その他	37
専門職・技術者	19
土木技術士	4
会計士	4
建築家・都市計画者	2
薬剤師	2
その他	7
事務職	7
自動機械制御・電子データ処理	2
在庫管理	2
その他	3
販売員	5
マネージャー（小売・卸）	2
監督者	2
セールスアドバイザー	1
管理職	2
総支配人	2
サービス労働者	3
料理人	3
合計	135

出所：POEA

1.3 フィリピンから FSM への輸出の拡大

フィリピンの FSM 経済におけるプレゼンスの拡大は、労働力のみではない。輸出もここ数年拡大している。FMS への輸入において、フィリピンは、工業製品、一般消費財を中心としたアメリカ本国、グアムからおよび工業製品の日本、シンガポールについて、5 番目である。また、注目すべきことは、非常に伸び率が高いことである。図 3 に見られるように、これらトップ 5 の輸出国のうち、2000 年から 2006 年に大きく輸出を拡大しているのは、シンガポールとフィリピンのみである。

図3 Imports growth by main countries of origine
(year 2000=100)



フィリピンから FSM への輸出品目、額についての詳細な分析は、今後の統計分析によって明らかにすべきであるが、筆者の 2011 年の FSM、チューク州の中心島であるウェノ島のスーパーマーケットの調査では、フィリピン製の菓子、缶詰めなどが多くみられ、米国製、中国製と匹敵することが確認された。FSM による国産化の可能性の高い食品加工産業がフィリピン製品の輸入によって押さえられているといえる。

2. ミクロネシア

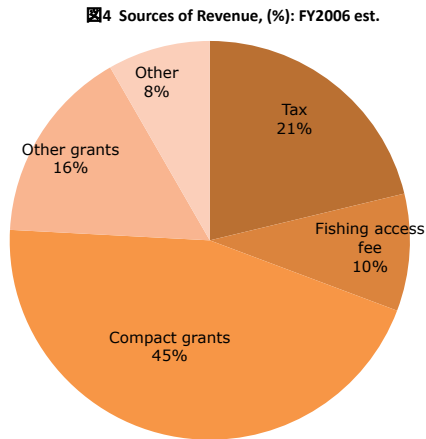
2.1 援助・貿易赤字・公務員の国

このように、フィリピンの労働者、輸入品のプレゼンスが高まる FSM とはどのような国であろうか。FSM は、ヤップ、チューク、コスラエの 3 州から構成される人口、約 11 万人の連邦国である。第二次大戦後、1947 年から 1978 年までは国連の信託領であったが、1979 年に独立し、パラオやマーシャル諸島などと同じくアメリカと自由連盟盟約 (Compact of Free Association) を結んでいる。これらの島嶼国は、アメリカに対し、海上、陸地の軍事戦略上のアクセスを認め、その見返りとして、1986 年から、2001 年に多額の融資パッケージ (Compact Grant) を受けることとなった。そして、この融資は 2003 年まで延長され、続いて 2003 年から 2023 年まで新しい融資パッケージの交渉が成立した (米国内務省)。

FSM 経済は、この融資で成り立っていると言える。図 4 は、2006 年の FSM の国家予算を示したものであるが、アメリカからの融資パッケージが 45% を占め、その他の援助 16% を加えると、61% となる。

これらの融資は、インフラの整備、人的資本の開発、島のコミュニティディベロップメントと様々な目的に利用されている。しかし、結果的には、教育水準の高度化は、連邦政府、州政府、地方の公務員の公的部門を肥大化させるのみで、民間部門の成長にはつなげていない。表 2 は、1994 年と 2000 年の FSM 全体の失業率と自給部門の割合の変化を示し

たものである。失業率は、16.3%から22%に上昇し、自給部門は、22.6%から28.4%に上昇している。両者を合わせた合計数は38.9%から50.4%と大きく上昇している。自給部門はいうまでもなく偽装失業者を多く含んでいることも忘れてはならない。



Source: FSM government

表2 Unemployment and subsistence rate		
	1994	2000
Unemployment rate	16.3	22.0
Percent of labor force in subsistence	22.6	28.4
source: FSM government		

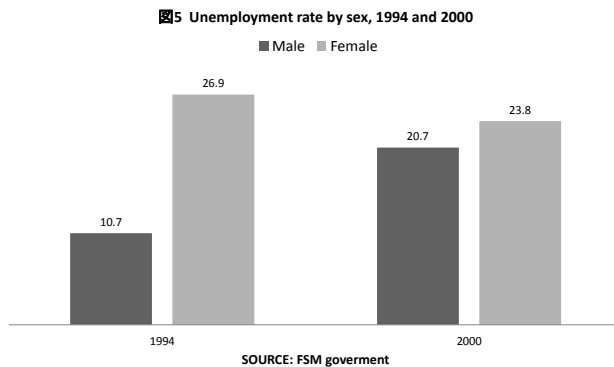
また、注目すべきことは、民間部門と公的分門での賃金格差が大きいことである。表3は、2004年の部門別の年間所得を表したものである。民間部門の年収平均の3,831米ドルは、公的部門の平均年収10,158米ドルの4割にも満たない。予算の大半が、公務員特に中央、州政府の賃金に消えてしまっていることが容易に想像できる。

部門	平均年収
民間部門	3,831
公的部門	10,158
金融部門	13,076
中央政府	11,424
州政府	7,657
地方政府	3,029
政府機関	8,716
非営利団体	4,178
大使館	8,257
FSM平均	6,187

出所: FSM政府

2.2 母系社会における男性のストレス

FSM では、公務員となり安定的な生活を送ることができない場合には、低賃金の民間部門で働くか、出身の島にもどり自給的な暮らしを送るかが、主な選択肢である。これらの選択は非常にストレスを伴うものである。特に、土地の相続において女性が有利な母系社会において、出身地は女性の出身地となることが多く、男性にとっては、ことさらにフラストレーションが鬱積する。また、アメリカの男女平等の教育機会の創出は、経済の面においても、男性の相対的な地位の低下をもたらす。図 5 は、さきほどの失業者の割合の変化を男女別に分けて示したものである。女性の失業率は、26.9%から 23.8%にわずかではあるが、低下しているのに対して、男性の失業率は、10.7%から 20.7%に急増している。



このような男性のストレスは、犯罪の増加にもつながっている。表4は、2000年と2001年のFSMにおける犯罪の種別数を示したものである。犯罪総数自体、約6千件から7千件へと1割以上増えているが、特筆すべきことは、凶悪犯罪（Felony）は、406から534と3割以上、犯罪一般(crime)は725から1682と2倍以上に増えている、男性のストレスと犯罪の関連性を結論づけるのはさらなる研究が必要であるが関連性はありそうである。

CRIME INDICATORS	2000	2001
Reported offenses	5,976	7,091
Misdemeanor	2,673	3,193
Minor traffic	1,856	1,540
Felony	406	534
Juvenile	316	142
Criminal	725	1,682

source: FSM government
 Note: Juvenile and Traffic offenses for Chuuk and Kosrae, respectively, were estimated based on reporting in previous years.

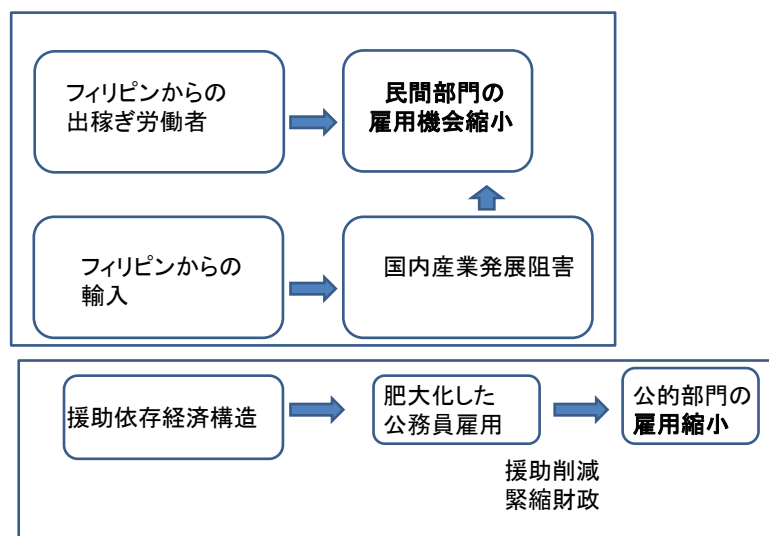
3. 2 国間の労働移動の影響

3.1 ミクロネシアの社会不安：「排除型社会」の進展

ミクロネシアの、特に男性のストレスは、フィリピン人労働者による民間部門での専門的および単純労働における拡大によって加速されるであろう。また、フィリピンからの加工食品の増加は、MSNの産業発展の可能性を抑制することになるであろう。このような状況が継続的に続けば、精神的に不安定になった男性による犯罪も増加することが予測される。ミクロネシアの人々が豊かに平和に暮らしているという楽園の神話が正しくないことについてはHezel(1980)らの研究で明らかにされている。彼は(1987)は、さらに援助で加速される貨幣経済によって、平等主義的種族社会が首長の金権政治化によって崩壊し、おもにグアム、サイパン、アメリカ本土への移住・出稼ぎが大家族制度をも変容させているとし、これらの社会的・血縁的セーフティネットの弱体化が経済弱者の生活を困難にしていると主張する。援助は、島への多額なボートやコミュニティホールの建設援助によって、島の共同体による自助を基礎とした結束を破壊している。島の首長は、現在でも尊敬されているが、援助物資を受け入れる窓口となることによって、金権主義となり、かつての平等主義ではなく、金銭的な貢献をする島民を選別して権限を与える。よって島の共同体は崩壊してしまっている。そしてもともと母系社会であり、土地の相続などにおいて女性の地位が高かった文化的背景に加えて米国の民主主義教育が女性の社会・経済における進出を可能とし、就業できない男性の立場がさらに悪化しているとする。この男性のストレスは、高い自殺率の(Hazel(1991))、暴力・犯罪(Oneisom(1991a))、精神疾患(hezel and Lightfoot(2005))、マリファナなどの薬物使用(Oneisom(1991b))と関連していると考え

られる。

経済構造の変化と社会・文化・政治の変化によって生み出されるストレスが犯罪につながるプロセスをアメリカの例で示したのがヤング(2007)である。彼は、フォーディズム時代が終焉し、雇用が低賃金国に移転したアメリカにおいて、黒人を中心とした有色人種の男性が、労働市場から排除され、夫婦関係あるいは女性のパートナーとの関係では、女性の政治的経済的立場の向上によって、相対的に弱くなり、暴力によってストレスを発散し、それが様々な犯罪につながるというプロセスを明らかにした。ミクロネシアでも、構造は異なるが、一部の男性が経済からはじき出され、女性との関係でもうまくいかず、犯罪につながっている。公務員になれないものは島でストレスを抱えて暮さなければならない。しかも援助額のカット、緊縮財政によって公務員の数や給料は減少している。その公的部門も、民間部門を発展させるためには効率的ではなく機能不全に陥っている(Hezel(1998))。民間部門での雇用を拡大し、生産性を上げることによって所得の上昇をはかるべきであるが、その目標は達せされず、さらに、フィリピンからの優れた労働者の出稼ぎや安価な食料品の増加が民間部門の成長を阻害しているのである。このプロセスを示したのが図6である。現在のFSMでは、公的部門、民間部門での雇用、社会、家族から「排除」された人々が増加している。特に若年の男性は、MFSの特有の社会構造=母系社会、女性の社会経済進出によってストレスを拡大させている。それが、さまざまな社会問題を引き起こしているのである。筆者が、チューク州の小さな島で、公的・個人の住居の破壊・落書き、真昼間からのドラッグ使用などを目の当たりにして衝撃を受けたが、これらは若年男性のストレスの現出形態であろう。



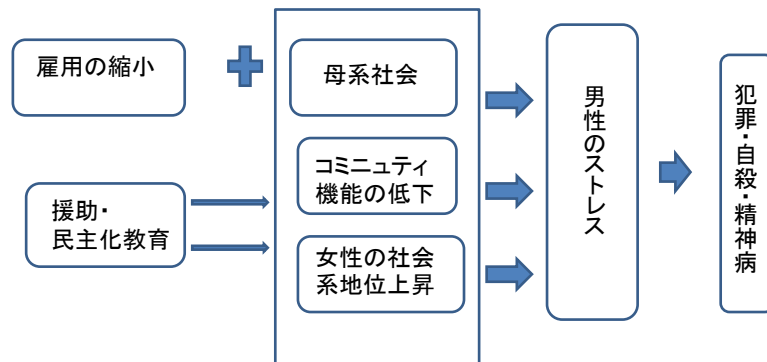


図6 FSMにおけるグローバル化の雇用・社会への影響

3.2 フィリピンのセカンド・チョイスとしての労働移動

では、FSMに働きに来るフィリピン人、その多くは男性であるが、はどうであるか。彼らの多くも、「排除」された人々である。彼らは、フィリピンの労働市場から「排除」され、高賃金の国際労働市場からも「排除」された人々である。フィリピン人労働者のFSMにおける賃金水準に関しては現時点では統計データを入手することができないので、詳細な議論はできないが、フィリピンとFSMでは、賃金水準に大きな差はなさそうである（表3および表5参照）。民間部門におけるFSMの平均年収は、4000ドルに満たない程度である。フィリピンの技術者の平均賃金とほぼ同水準であり、会計士などは、FSM平均よりもかなり高い。フィリピンとFSMとの旅費、リクルーターへ支払うコストを差し引くと多くは残らないであろう。

FSMで働くフィリピン人について、今後の調査が必要であるので仮定的な議論しかできないが、その人が農村出身の場合は、次のようことが考えられる。農村出身者の場合は、出稼ぎに来る前には、リクルーターへ支払う代金や旅行代金のために、農地の一部またははすべてを担保にして借金をおこなう。MSNでは、高所得を稼ぐことはできず、帰国後は農地を取り戻すことができないかできたとしても、貯金はこのらず、もとの生活水準のままとなる。農地が残っていれば、そのまま、収入の少ない農業をおこなうかあるいはまた農地を担保として、また海外へ出稼ぎに行くしかない。筆者はかつて、イロイロ地方で、海

外出稼ぎ労働と農地経営に関する調査をおこなった（西村(1994)）。この調査では、息子がアメリカの医者となった唯一の「勝ち組」がそのほかの海外での低賃金労働に向かう村民に対し農地を担保として金貸しを行っていた。散在する農地を経営するために農業労働者を雇用していた。所得の低いしかも雇用期間が限定された不定労働者層が生み出されていたのであった。このプロセスを示したのが図 7 である。フィリピン人の低賃金国の労働市場への進出は、あくまでも当事者にとはセカンド。チョイスであり、多くの場合は、労働力が過小評価されることを意味し、このことは、フィリピンの経済成長あるいは出稼ぎ労働者家族の経済的豊かさを達成にはつながらない。フィリピンの国策としての出稼ぎ労働者の維持、増加において、高所得国における、単純労働部門への労働供給、低所得国における低賃所得という形が中心であり、このことは、優秀な労働力の不完全利用を意味するといえる。高所得国では、受け入れ国民では充足できない労働需要を充足するという意味で、「合理的」であるともいえるが、低所得国では、受け入れ国の国民が雇用を失うという深刻な状況につながりかねない。

部門	平均年収
民間部門	3,831
公的部門	10,158
金融部門	13,076
中央政府	11,424
州政府	7,657
地方政府	3,029
政府機関	8,716
非営利団体	4,178
大使館	8,257
FSM平均	6,187

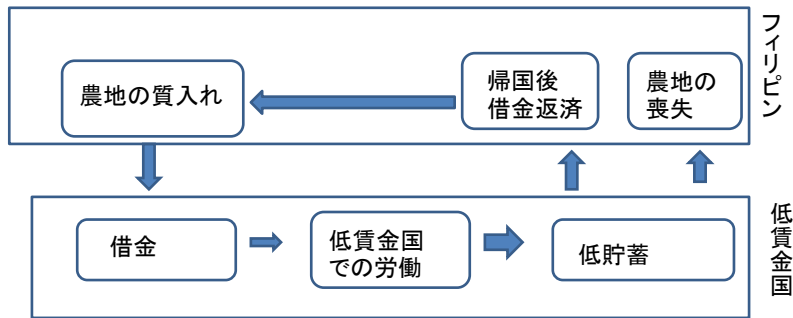


図7 フィリピン農村から低所得への出稼ぎ労働と農地の関係

おわりに：不幸な周辺部相互のグローバル化

FSM では、公務員になれなかったものは、「排除」される。食品加工などの成長の可能性のある産業、公務員以外の雇用はフィリピン人労働者によって奪われてしまう。海外に出稼ぎとしても条件の厳しい低賃賃金労働のみが残されている。実際、海外労働者の数は減少している(Hezel (2006))。特に、母系社会、女性の地位の向上は、男性のストレスを助長し、ドラッグ、アルコール中毒、犯罪の結果となっている。FSM に出稼ぎに来るフィリピン人は、高所得は期待することができず、多くの貯蓄を行う事は困難である。このように、アジア太平洋地域の発展途上国＝周辺部における労働の、軽工業製品のグローバル化はお互いにとって不幸な形であるといわざるをえない。

今後は、このような周辺部相互のグローバル化が経済・社会に与える影響を詳細に分析するために、フィリピンから FSM への出稼ぎ、輸出の拡大を統計データを用いて明らかにするとともに、FSM で出稼ぎするフィリピン人への聞き取りをおこない、出稼ぎ前後の資金流れを明らかにする。また、FSM の離島において島民へ雇用・所得・共同体の調査について聞き取り調査をおこなう。また、国策としてのフィリピンの出稼ぎ労働者創出の具体的制度、FSM のコンパクト・グラントを中心とした援助の内容についても整理する必要がある。

参考文献・資料

<文献>

- Hezel, Francis X. S. and Samuel, Eugenia (2006) .Micronesians Abroad *Micronesian Counselor* .
- Hezel, Francis X. S.J. (1980) Yesterday's Myths, Today's Realities, *America*, 434-7.
- Hezel, Francis X. S.J. (1987) The Dilemmas of Development: The Effects of Modernization on Three Areas of Island Life. *The Ethics of Development: The Pacific in the 21st Century*, Edited by Susan Stratigos and Philip Hughes, Port Moresby: UPNG Press, 60-74.
- Hezel, Francis X. S.J. (1991) What Can We Do to Prevent Suicide? *Micronesian Counselor* .
- Hezel, Francis X. S.J. (1998) Why Don't Our Government Offices Work? *Micronesian Counselor*.
- Hezel, Francis X. S.J. and Lightfoot, Chris (2005) The Myths of Economic Development in the FSM, *Micronesian Counselor*.
- Oneisom, Innocente I. (1991a) Chuuk's Violence: Then and Now, *Micronesian Counselor* .
- Oneisom, Innocente I. (1991b) Marijuana in Chuuk *Micronesian Counselor*.
- ヤング, J (2007) 『排除型社会—後期近代における犯罪・雇用・差異』 洛北出版.
- 西村知(1994)「フィリピン・西ビサヤ地方稲作農村の農業発展—イロイロ州ポトタン村の事例を中心として—」『経済学研究』第 60 巻、第 1・2 合併号、pp. 107-124.

<統計資料>

- 2005 FSM Statistical Yearbook, FSM National Government.
- Household Income and Expenditure Survey Analysis Report FSM 2005, FSM.
- International Trade Publication FSM 2004, FSM National Government.

<ウェブ・ページ>

- 米国内務省
<http://www.doi.gov/oia/Islandpages/fsmpage.htm>
- Division of Statistics, FSM
<http://www.spc.int/prism/country/fm/stats/>
- 外務省
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/kankei.html>
- POEA (2010) *Overseas Employment Statistics 2010* (フィリピン海外雇用庁統計)
http://www.poea.gov.ph/stats/2010_Stats.pdf
- Worldsalaries.org
<http://www.worldsalaries.org/philippines.shtml>

謝辞

この研究を行うに当たって、フィリピンや FSM の農民、島民への聞き取り調査をおこなった。彼らの本研究への理解と協力を心から感謝したい。また、ミクロネシア研究に関して様々なアドバイスを下さった鹿児島大学国際島嶼教育研究のスタッフの先生方に御礼申し上げます。